

# 国語科学習指導案

安芸太田町立加計中学校 立田 晃

- 1 日時 平成 16 年 12 月 6 日(月)
- 2 場所 安芸太田町立加計中学校 3 年 A 組教室
- 3 学級 第 3 学年 A 組(26 名)
- 4 単元名 推敲力をつけよう
- 5 単元について

## (1) 単元観

中学校学習指導要領解説国語編には、第 2 学年及び第 3 学年における推敲についての指導事項として「書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章にすること」が示されている。また、推敲指導を平素から書くことの学習にしっかりと位置付けて推敲の習慣化を図ること、第 2 学年及び第 3 学年における推敲指導では「筋道立てて論理的な文章にしていくこと」が求められている。そこで本単元では、推敲の観点を明らかにして具体的な方法を身に付けさせることで、文章を論理的に書き表す能力を高める。

## (2) 生徒観

ほとんどの生徒が、生活の中で体験したことに対する感想を 400 字程度の文章で書き表すことができる。しかし、推敲の習慣が十分に身に付いていないために、誤字脱字や文のねじれなどが見られる生徒がいる。また、推敲の観点や方法が十分に身に付いていないために、意見の文章を論理的な構成を工夫して書くことができない生徒がいる。

## (3) 指導観

指導にあたっては、推敲の観点を具体的に示した「推敲シート」を作成し、それを推敲や相互批評、教師批評において文章の評価表として活用する。また、推敲の観点や方法を確実に身に付けさせ、それを実際に文章を書く際に適用させるために、以下の 4 段階に分けた指導を展開する。

第 1 段階 推敲の観点ごとに例文を推敲させる。

第 2 段階 「推敲シート」を使って、自分が書いた意見文を推敲させる。

第 3 段階 「批評シート」(「推敲シート」を批評用に変更したもの)を使って、友人と相互批評を行わせる。

第 4 段階 推敲の観点と方法を適用した意見文を書かせる。

## 6 単元の目標

書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章にできる。(「書くこと」-オ)

書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方などについて自分の表現に役立てることができる。(「書くこと」-カ)

字や語句、文の構成に注意して、文章を表記する。(言語事項(1)(2))

7 単元の評価規準（観点別）

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
推敲の仕方に関心を持ち、文章を論理的に書こうとしている。	書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章にしている。 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方などについて自分の表現に役立てている。	漢字や語句、文の構成に注意して、文章を表記している。

8 単元指導計画（全6時間）

次	時	学習内容	評価の観点				
			関	書	言	評価規準	評価方法
1	1	例文を使って、表記に関する推敲の仕方を学習する。				推敲の仕方に関心を持ち、表記に関して例文を推敲している。	観察 小テスト
	2	例文を使って、内容と構成に関する推敲の仕方を学習する。				内容と構成に関して例文を推敲している。	小テスト
2	3	意見文『公園にゴミ箱は必要か』を書き、「推敲シート」を使って推敲する。				意見文を書き、それを推敲した結果を「推敲シート」に記入している。	意見文 「推敲シート」
3	4	意見文を「批正シート」を使って相互批正し、それを参考に清書する。（本時）				友人と相互批正し、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方などを参考にして清書している。	「批正シート」 「推敲シート」 意見文 清書
4	5	意見文『中学校に制服は必要か』を書く。				表記・内容・構成について推敲しながら、意見文を書いている。	意見文 「推敲シート」
	6	教師批正を参考に意見文を清書し、単元のまとめを行う。				教師批正を参考に意見文を清書し、単元のまとめをしている。	意見文 清書 振り返りカード

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

「推敲シート」を使って友人と相互批評を行い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方などを自分の表現に役立てる。

### (2) 準備物

「推敲シート」、「批評シート」(「推敲シート」を批評用に作りかえたもの)、原稿用紙

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項( ) (「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準	評価方法
1 これまでの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	「推敲シート」で、推敲の観点を確認する。		
2 「批評シート」を活用し、4人一組で、意見文の相互批評を行う。 (1) 友人の意見文を批評し、評価を「批評シート」に記入する。 (2) 「批評シート」を交換し合い、友人からの評価を「推敲シート」に記入する。 (3) 自分の推敲(前時)と友人との相互批評を比較する。	「批評シート」への記入の仕方を説明する。 小グループの編成は、生徒の実態を考慮して、事前に指導者が行う。 批評した箇所は、色ペンで記入させる。比較しやすいように、批評者ごとに色を変えさせる。 相互批評が、単なるあら捜しに終わらないように指導する。 作業が遅れがちな生徒に対する個別の支援を行う。	友人と相互批評に取り組み、その結果を「批評シート」に正確に記入している。 Aの見取り 観点 ~ について、教師批評に準ずる適切な批評を行っている。	「批評シート」
3 前時の推敲と友人による批評を参考に、意見文を清書する。	清書が早く終わった生徒には、読書をするよう指示する。 作業が遅れがちな生徒に対する個別の支援を行う。	推敲と批評を参考にして、清書に取り組んでいる。 Aの見取り 推敲の観点 ~ のうち、13以上の観点が条件を満たしている。	意見文の清書
4 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	振り返りカードを活用する。		振り返りカード



